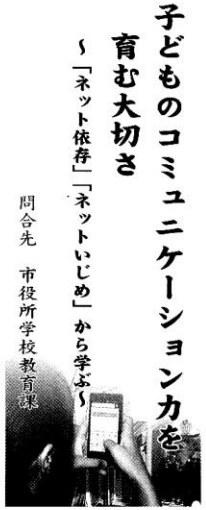
子どものコミュニケーション力を育む大切さ

～「ネット依存」「ネットいじめ」から学ぶ～

問合先　市役所学校教育課



インターネットの普及が進む中、小学生もスマートフォン（スマホ）を持つ時代になってきました。平成27年度に行われた内閣府の調査によると、小学生の23・7％、中学生の45・8％（図1・2）、高校生の93・6％がスマホを利用していて、今後も使用率が高まっていくことが予想されます。

子どもたちがスマホを持ちたがる理由は「友達との連絡に便利」「ゲームをしたい」が多く、内面には「みんなが持っているから仲間外れになりたくない」という心理が働いています。

一方、保護者が子どもにスマホを持たせるのは「居場所が分かる」「すぐに連絡が取れる」など、「安全・安心だから」という理由が多いのではないでしょうか。しかし、子どもたちが持ちたがる理由と保護者の意識とのずれが、今、深刻な問題となって現れてきています。それは**「ネット（スマホ）依存」**と**「ネットいじめ」**です。保護者が安全・安心のためにと持たせるスマホが、違った側面から見ると、大きな危険をはらんでいるのです。

【スマホ・携帯電話の利用状況】

図1　小学生

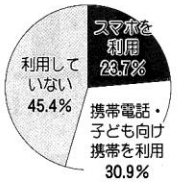


図2　中学生

ネット（スマホ）依存

依存症とは、お酒やギャンブル、買い物、ゲームなどにのめり込み、日常生活に支障を来しているのにやめられない、自分でコントロールできない状態をいいます。

ネット（スマホ）依存になると、主に次のような症状が現れます。

①スマホが手放せない
②仕事や学業に集中して取り組めない
③スマホを取り上げられると極度にイライラする
④気分が低下する
⑤脳の発達に悪影響をもたらす

このなかで成長期の子どもにとって恐ろしいのが⑤で、最近では医学的に、脳の機能にダメージを与えるということが報告されています。

稲沢市いじめ・不登校対策委員会の主催で、市内小・中学校の教員を対象に、名城大学非常勤講師でNPO日本次世代育成支援協会の鷲津秀樹理事を講師として「心理から見たスマホ・ネットいじめ」をテーマに研修会を開催しました。

その内容の一部を紹介します。

「ネットいじめ」の背景にある3つの心理

1　コミュニケーションがないと、人は耐えられない

人と人とのコミュニケーションが無い状態に、人は耐えられないものです。寂しい状態、無視される状態に耐えられず、たとえ悪口や他人を批判する言葉であっても、コミュニケーションを求めてしまいます。

「つまらない」「退屈だ」「1人でいることが多い」という状態が続くと、「ネット依存」や「ネットいじめ」の可能性が高まるようです。

2　顔が見えないと、攻撃性は高まる

個人が特定されにくい、顔の見えない状態に置かれると、人は攻撃性が高まることが数々の心理実験で明らかにされてきました。インターネットという顔の見えない世界でも同様に、無意識に人は攻撃性を高めてしまいます。

3　「自分もいつかは被害者になる」という不安

いじめ・いじめられの関係はとても流動性が高く、いじめっ子がいじめられっ子に代わるのもあっという間です。自分がいつ被害者になるか分からない心理状態では、人は周りの意見に同調してしまいがちです。誰かが悪口を言ったら周囲がそれに賛同し、いじめを拡大させてしまうのもこの心理が原因です。

ネットいじめ

「西九州大学子ども学部紀要第6号」（西村麻希・著）によると、中学生の4人に1人がネットいじめを受けたことがあると回答しています。

内容は、①悪口や傷つく言葉、根拠のない噂を書き込まれた（73・8％）②個人情報を無断で流された（20・2％）③ネット上で仲間外れにされた（15・5％）などとなっていて、いじめを受けたことがある子どもの51・2％は誰にも相談していませんでした。その理由は「相談しても解決しないと思った」（39・5％）「相談してさらに広がるのが怖かった」（32・6％）などとなっています。

こうした子どもたちを救うには、子どもの様子をつかんだり相談体制をつくったりするなど、周囲の大人のサポートが重要です。

市の取り組み

市内の小・中学校では「ケータイ・スマホ安全教室」などを開催し、インターネットの正しい使い方や友達とのコミュニケーションのとり方を教えています。また、子どもの悩みに気付き、相談に乗ることができる体制づくりに努めています。

●小学校での情報モラル教育

道徳の時間や総合的な学習の時間などに、「コンピューターやインターネットなどの情報手段に慣れ親しみ、文字入力などの基本的な操作や情報モラルを身に付けるとともに、適切に活用できるようにする」ことを重点目標として行っています。

【学習の内容】
・情報発信による他人や社会への影響について考える
・ネット上のルールやマナーについて考える
・ネットの利用による健康を害するような行動について考える

●中学校での情報モラル教育

技術・家庭科、道徳の時間、総合的な学習の時間などに、「情報モラルを身に付け、コンピュータやインターネットなどの情報手段を適切かつ主体的・積極的に活用できるようにする」ことを重点目標として行っています。

【学習の内容】
・3年生の技術分野「情報に関する技術の評価・活用」の中で、情報通信ネットワークと情報モラルについて学習する
・ネットを利用する上での責任について考える
・ネット上の基本的なルールや法律を理解し、違法な行為がもたらす問題について考える
・ネットの利用による健康を害するような行動について考える

家庭と学校の共通認識と協力体制が、よりいっそう求められています。共に連携し、子どもの健やかな成長を支えていきましょう。

子どもの「コミュニケーション力」の育成

ネットいじめに関わらない子どもとはどんな子でしょうか。特徴として、次のようなことが挙げられます。

①家族との対話が多い
②友人や遊び友達がいる
③学校がおもしろいと感じる
④何かに自信を持っている
⑤スマホ・ネット以外に何か趣味がある
⑥物事を人に頼んだり、断ったりすることができる

この6つに共通している大切なことが「コミュニケーション力」です。スマホやインターネットを使用するにあたって、家庭では次のコミュニケーションが必要です。

①子どものスマホやインターネットの使用時間・内容を、保護者が把握する
②スマホなどを自室に持ち込まない、夜遅くまでやらないなど家庭でのルールを、保護者と子どもがきちんと向き合い、話し合いながら作っていく
③ネットへの安易な書き込みによって起きることの怖さを正しく教える。「仮に～をしたらどうなるか」と考えさせたり、時間をおいて読み直してからメールを送るなど具体的な対応について話し合ったりしておく
④日頃から子どもの言動や表情に目を配り、様子の変化に保護者が気付く

家庭でのコミュニケーションが、子ども自身のコミュニケーション力を育むことにつながります。相手の気持ちをくみとること、自分の思いや考えを丁寧に相手に伝える力を身に付けることが大切です。